

○野呂瀬 崇彦<sup>1</sup>，伊藤 三佳<sup>1</sup>，遠藤 菊太郎<sup>1</sup>，藤本 哲也<sup>1</sup>，守屋 寛之<sup>1</sup>，  
村上 美穂<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>北海道薬大

少子化による全入時代に加え近年の薬学部新設ラッシュにより、多くの薬系大学は、基礎学力はもとより薬剤師となることへのモチベーションに関しても多様な背景をもつ新生を迎えている。

北海道薬科大学ではこうした状況に対応するために、平成21年度より1年次後期に「薬剤師実務体験実習」（必修30時間/10日間）を開講している。本実習は薬剤師の実務において必要とされる計算能力、コミュニケーション能力を身につけるとともに、これらの能力が実務上どのように意味づけされるのかを体験を通じて学ぶことを目的としている。学習項目として「散剤調剤」「液剤調剤」「注射薬調製」「栄養計算」「コミュニケーション」の5つを掲げ、このうちコミュニケーションを除く4項目は計算演習と実務体験実習を組み合わせ実施している。計算演習ではチーム基盤型学習（TBL）を導入することにより、予習および演習時間内の相互学習による計算能力の底上げを図っている。さらに計算演習に続いて実施される薬剤師実務体験（散剤調剤、液剤調剤、無菌室における注射薬の調製等）により、自分たちが習得した薬学計算技術やその背景となる化学、生物学、物理学の知識が、薬剤師実務とどのように結びつくのかを理解できるように構成している。

本実習終了後の授業アンケートより、学生は相互学習の有用性を体感していること、薬剤師実務と基礎科目や計算能力との結びつきを理解していることが伺えた。さらに、本実習を通じて薬剤師の業務がより明確にイメージできるようになり、学習のモチベーションが向上した学生も見られた。